

<平成29年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

千葉県 野田市立木間ヶ瀬中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

#### 挨拶（5分）

#### 準備体操（10分）

#### 主運動（30分）

#### まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等）を設け、  
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

#### 挨拶・自己紹介（10分）

#### オリンピックの価値を伝える（10分）

#### グループワーク（20分）

#### まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

- 期 日 : 平成29年10月11日 (水)
- 場 所 : 野田市立木間ヶ瀬中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (40名)
- オリンピアン : 野村 智宏 先生 (陸上競技・走高跳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・野村先生から簡単に自己紹介をした後、体育館の壁を使って世界記録と自己ベストの高さを示して競技について紹介。オリンピックシンボルに込められた意味を説明し、今日はオリンピックシンボルのように皆一丸となろうと呼び掛け、準備体操へ移る。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・6班に分かれて3班ずつ、ボールを取り合うゲームを実施。各班の陣地に1個ずつ、中央に2個置かれたボールを取り、最初に自陣にボールを3個集めた班の勝ち。  
 ・クラス全員で手つなぎだるまさんがころんだを実施。

## 4. まとめ



・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューについて、エクセレンスはできないことができるようになること、フレンドシップはクラスの仲間を思いやること、リスペクトは様々なことに一丸となって挑戦することと説明し、座学の時間ではさらに詳しくバリューについて学ぼうと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・簡単な自己紹介の後、アトランタ大会の映像を見せながら競技や世界記録を出した選手、試合に出場した際の心情等を紹介。
- ・座学の時間では野村先生の経験を通してオリンピックバリューについて説明すると授業の目的を確認し、オリンピックバリューの意味をエクセレンスはベストを尽くす、努力を積み重ねること、フレンドシップは仲間への思いやり、リスペクトは全ての人への感謝、チームワークと説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- ・発問①：自分の目標や夢をA4シートに個人でまとめ、目標や夢を達成するために必要なことを考えよう。
- ・発問②：合唱コンクールを成功させるために活かせるオリンピックバリューを考えよう。
- ・発表②：練習を1回1回大切にす、手を抜かない(エクセレンス)、仲間を信頼して歌う(フレンドシップ)、指揮者・パートリーダー・クラスの皆に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックは選手だけのものではなく、全ての人のものであり、東京2020大会も選手としてだけでなく、ボランティア、観客として参加することができると話す。オリンピックバリューは特別なものではなく日常生活の中で皆も実践することができ、これらを実行することが夢を叶えることにつながる。自分自身が頑張ろうと思う気持ちを大切にしていほしいと伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年10月11日 (水)
- 場 所 : 野田市立木間ヶ瀬中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (37名)、2年3組 (39名)
- オリンピック : 宮下 純一 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・宮下先生から自己紹介をした後、東京2020大会で千葉県で行われるオリンピック競技を知っているか生徒に問いかけ、オリンピックが身近に体感できる良い機会なので是非観戦したり、ボランティアとして参加してほしいと伝える。
- ・今日はオリンピックとは何か、オリンピックが何を考えてオリンピックを目指しているのかを皆に知ってもらいたいと授業の流れを説明し、準備体操へ移る。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・3チームに分かれて大縄跳びを実施。跳び方は8の字跳び、全員跳びから選択し、8の字跳びは跳んだ回数を得点とすること、全員跳びは跳んだ回数に人数を掛けた数を得点とし、引っ掛かったら0から数え直す。90秒間挑戦し、終了の合図が鳴った時に跳んでいた得点を発表。全2回実施し、合計得点が多かった上位2チームで決勝戦を実施。宮下先生からは3位のチームは大きな声で応援するよう伝える。

## 4. まとめ



- ・決勝進出をかけて各チーム様々な事を考えながら取り組んでいたと伝え、宮下先生が記録した100m背泳ぎの日本記録は約53秒であったが、オリンピックでも作戦を考えたり、駆け引きをしたりして、53秒間のために人生をかけたと話す。予選では良いパフォーマンスができなくても、気持ちを切り替えて挑めば決勝で逆転もできるから諦めずに挑戦することが重要だと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・簡単な自己紹介の後、北京大会の映像を見せながら競技について説明し、リレーの第一泳者としてスタートする際の心境等を紹介。
- ・東京2020大会では千葉県で4競技行われることに触れ、皆もオリンピックに関心を持ってほしいと伝える。
- ・宮下先生はオリンピックへ出場したことでオリンピックバリューを感じることができたと話し、ライバル選手とのエピソードや北京大会に出場した際の経験談を交えてバリューについての説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- ・発問：日常生活で感じることができるオリンピックバリューを考えよう。
- ・発表：部活でできなかったことに何度も挑戦してできるようになった、今まで勝てなかった相手に自主練習をして勝つことができた(エクセレンス)、駅伝の練習で仲間が背中を押してくれた、中学に入ったら友達がたくさんできた(フレンドシップ)、駅伝の全国大会に出ることができた時に関わってくれた人に感謝した(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューについてたくさんの意見を挙げてくれたように、バリューは日々の生活の中にも存在しており、スポーツ以外においても大切にしてほしいと伝える。東京2020大会では、出場するだけでなくボランティア等様々な関わり方があるので、関心を持って一緒に盛り上げていきたいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組



■ 集 合 写 真

2年3組



■ 記 念 品 贈 呈

2年1組



2年2組



2年3組



■ 証 明 書 贈 呈

